

# 漢おとこを磨く京都の1週間自修。お題は戦国。



## ハードル上げたぞコイツら…。べんだい生の恒例行事を決行！ 3期生上洛す！

せつかくの夏休みだから、“京都で源氏物語を調べて恋愛を学び、ついでに彼女もゲットしちゃおう”というコンセプトが、いつしか暴走し、「食費は浮かせ」「水は拾え」「タダで泊めてもらえ」「絶対のチーム行動でケンカは奨励」「まあ、とにかく苦労しろ…」と、まるで武者修行のような1週間になってしまい、いつか…べんだい名物行事となってしまった。皆様の声援を受け、3期生たちは脱藩浪士の気持ちで上洛した。さて今回、調査するお題は「戦国時代～朝廷にまつわるエトセトラ」。実は、3期生は理系の学生が半数を占めており、日本史は小学生レベル…。そんな無知な連中が、この京都という歴史的舞臺で、アポ無しでお寺や神社、歴史施設を飛び込み取材するわけだから、どんなものになったかはお想像にお任せします。ただ、彼らを救ってくれた唯一のアイテムは、コスチュームの作務衣(サムエ)。洗濯しない奴らの衣は、見事なまでに塩を吹き修行僧そのもの。1週間の体験を終えた彼らの姿は、間違いなく漢(おとこ)を磨いた風に仕上がっていた…。

最終日の夜、漢たち一同は大阪へ。それは「就活生の夏合宿」に乱入するため。そこで参加学生を勇気付けるという名目で、無理やりプレゼンをさせてもらった。優勝チームには報酬として合宿に合流させてもらえる券が与えられ、負けたチームは、とどめの野宿が与えられた。

